



101個の玉に一喜一憂

わかかさ・プラザ「総合体育館・メインアリーナ」で2月24日、せきスポーツクラブ主催による第4回岐阜県玉入れ大会が行われ、約200人が101個の玉を使った熱い戦いを繰り広げました。1チーム5人編成の35チームが、赤、紫、黄などカラフルな6色の玉をかご目掛けて放り投げ、最後の玉がかごに入ると選手や観客から大歓声があがりました。

青い宝石が輝きますように

ブルーベリー生産地の板取で、夏の収穫に向けて、ブルーベリーの枝の剪定作業が3月中旬から行われました。板取ブルーベリー振興会(長屋正幸会長)の8農家19人が、6カ所約20アールの畑で約50品種のブルーベリーを栽培しており、夏の「板取の青い宝石」の収穫に向けて、剪定ばさみやのこぎりなどで、慎重に枝を剪定していきました。



新酒の出来に満足

特別純米酒「さんやほう」を仕込むために、関の特産米「みのにしき」を農薬などを使用しないで栽培する有志「さんやほうサポーター」が、醸造などをする小坂酒造場(美濃市)の協力で、新酒を味わう会を行いました。11年目の「さんやほう」

は、杜氏とうじさんも自信の出来で、参加者たちは「今年も美味しい酒になって良かった」と舌鼓を打ちました。仕込まれた1300リットルの酒は、市内の酒店などで販売されています。

商店街活性化に向けて

本町プラッツで3月4日、本町商店街おかみさん会「TOGETHER21(高井絹代代表)」のメンバー11人と尾藤市長が本町商店街を中心とした市街地の活性化などについて話し合いました。メンバーから、商店街活性化や市政に対して活発な意見や要望があり、尾藤市長が、「商店街を高齢者が安心して来られる憩いの場としてみてはどうか」などと提案する場面もありました。



こぼれ話



今号で平成20年度予算について掲載しました。新年度予算のタイトルは「人とまちを大切に作る予算」、その編成にあたっては「子どもたちの輝く未来のために」というテーマで未来を担う子どもたちのための施策に重点を置いています。多くの皆さんに関心を持って見ていただくために、子どもたちの輝くような笑顔の写真を巻頭に載せようと、児童センターやふれあいセンター、市内の保育園にもお願いして撮影させていただきました。とこ

ろが、いざ撮影してみるとこれほど難しいものとは…。友人の保育士さんに相談したら、「子どもの笑顔撮るなら半日はかかるかも」と言われました。よく考えれば、そもそも知らない男の人にカメラを向けられて「はい、笑ってー」なんて言われても、子どもが簡単に笑ってくれる訳がありません。しかし、子どもの笑顔というのは見ているこちらもつい微笑んでしまうくらい本当に魅力的で、何とかして載せたいと思いました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。